



第九十五回記念 特別陳列

—白日会中興の祖 伊藤清永展—

洋画家・伊藤清永の厳選された代表作 20 点を公開

白日会中興の祖・伊藤清永前会長

伊藤清永先生は白日会第 10 回展から出品し、創立会員中沢弘光率いる白日会の、当時は新進気鋭の若手として質の高い旺盛な制作により活躍しました。

また先の大戦と戦後の社会的大混乱と新しい美術潮流に翻弄され、存続が危ぶまれるほど弱体化した当会において、伊藤先生は「研究団体」の筋を通し「絵画の王道」を問い続け、常にこれらを自らの制作により体現しつつ、会の建て直しをはかりながら後進の育成に邁進し、当会を導き支え続けてきました。

伊藤先生の情熱と粘り強い努力の上にやがてそれらは華となり果実となり、作家としては「裸婦」と「薔薇」の作品で高評価を得て後に文化勲章を受章、指導者としては中山忠彦現会長を筆頭に、第一線で活躍する多くの作家を輩出しました。また当会を「研究団体」として、常に会の中心で導き続け、プロ作家の育成とその集団化を図りつつ、一方自由で温和な協調性ある当会の会風を育て上げ、今日の白日会の基盤を作り上げました。

こうした様々な業績は、伊藤先生が多難な歩みであった当会と苦楽を共にしながら作家人生を歩み続けたことにより成されたものであり、まさに伊藤清永先生をもってして白日会中興の祖とする由縁です。



伊藤清永・洋画家

明治 44 年 (1911) 兵庫県出石町 (現豊岡市) 生まれ。平成 13 年 (2001) 逝去。
白日会前会長・日本藝術院会員・文化功労者顕彰・文化勲章受章



裸婦の金字塔、洋画家・伊藤清永の歩み

伊藤清永は明治 44 年 (1911)、兵庫県出石町 (現豊岡市) の禪寺の三男として生まれました。愛知学院大学の前身である曹洞宗第三中学林に通学、14 歳から油絵を描き始め画家を志し上京、本郷絵画研究所で岡田三郎助に学び、東京美術学校に入学、能勢亀太郎 (白日会第 10 回展より伊藤と共に出品) 主催の画塾の書生を務め (ちなみに平松讓も能勢塾出身)、能勢の誘いで在学中に白日会第 10 回展に出品、白日賞を受賞し、同年の第 14 回帝展にも出品しました。

24 歳で東京美術学校を卒業した翌年、昭和 11 年 (1936) 文展で「磯人 (いそど)」が選奨受賞。二度の徴兵を経験し、終戦復員後兄の住職代理を一時期つとめました。戦後の第 3 回、第 4 回日展にて特選を重ね、作家としての地歩を固めつつ独自の裸婦像を探求し、昭和 28 年 (1953) 42 歳の時には「伊藤絵画研究所」を開設し、中山忠彦を筆頭に多くの後進を指導しました。

昭和 37 年 (1962) に渡欧し、パリ滞在制作やオランダ国立美術学校で制作。その後「伊藤の裸婦」として美術界で高い評価を確立し、「伊藤の薔薇」も好評を博しました。その一方、愛知学院大学講堂に約 7 年がかりで巨大油彩壁画「釈尊伝四部作大壁画」を制作し昭和 59 年 (1984) 73 歳の時に完成しました。同年、日本藝術院会員となり、翌年白日会会長に就任、平成 3 年 (1991) 80 歳の時に文化功労者に顕彰され、平成 8 年 (1996) に文化勲章を受章しました。平成 13 年 (2001) 90 歳にて、白日会第 77 回展に出品した後、6 月 5 日急性心不全の為、軽井沢病院で没しました。



- 1 「室内」 150 号変形 1948 年 (昭和 23 年) 兵庫県立美術館所蔵
- 2 「曙光」 100P 1976 年 (昭和 51 年) 日本藝術院所蔵
- 3 「椅子に臥る裸婦」 100P 1951 年 (昭和 26 年) 豊岡市立美術館—伊藤清永記念館—所蔵
- 4 釈尊伝四部作「降誕」 380×270 1984 年 (昭和 59 年) 愛知学院大学所蔵
- 5 「オランダの裸婦」 80F 1962 年 (昭和 37 年) 豊岡市立美術館—伊藤清永記念館—所蔵
- 6 「手鏡」 80P 1983 年 (昭和 58 年) 兵庫県立美術館所蔵
- 7 「母の肖像」 50F 1946 年 (昭和 21 年) 豊岡市立美術館—伊藤清永記念館—所蔵

白日会制作動画 YouTube で公開中

「白日会中興の祖 —伊藤清永先生を語る—」

中山忠彦白日会会長 (日本藝術院会員・洋画家) と、瀧梯三氏 (美術評論家) 笠井誠一氏 (立軌会代表・洋画家) の鼎談 (第一部) と、白日会の若手常任委員 6 人との質問座談 (第二部) の二部構成。洋画家・伊藤清永 (白日会前会長・文化勲章受章) の作家論・作品論を掘り下げながら、伊藤芸術の精髓と、絵画の普遍性に迫る。

● 3 月 20 日 (水) 13:00 ~ 16:30 美術館 3F 講堂にて上映会 ※詳しくは本展リーフレットをご参照ください。



豊岡市立美術館—伊藤清永記念館— 風情のある街並みにたたずむ美術館

当記念館は昭和 62 年 (1987) に開催された「現代洋画の重鎮・伊藤清永展」を契機に、平成元年 (1989) に「出石町立伊藤美術館」として開館しました。伊藤清永画伯の代表作を含む多数の作品や資料を保存、それらの展示発表をはじめ、地元ゆかりの芸術家の作品を紹介・展示するほか、年に数回の特別展を開催しています。平成 26 年 (2014)、開館 25 周年を機に「豊岡市立美術館—伊藤清永記念館—」と名称を変え、平成 31 年 (2019) 11 月には、開館 30 周年を迎えます。

豊岡市の観光名所である城下町「出石」の中心部にたたずむ当記念館は、昔の町並みが残る「伝統的建造物群保存地区」の空間に溶け込む美術館です。木の温もりあふれる館内で、伊藤清永画伯の幼少期に故郷を描いたスケッチから、晩年の柔らかで輝かしい裸婦像まで多彩な作品をゆっくりと鑑賞することができ、心安らぐひとときが過ごせます。近くにお立ち寄りの際は、ぜひ、ご来館ください。

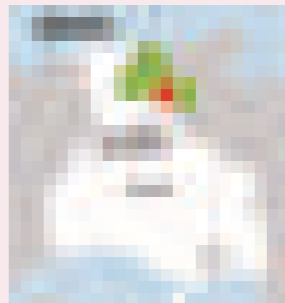


豊岡市立美術館
—伊藤清永記念館—
兵庫県豊岡市出石町内町 98
TEL : 0796-52-5456

〈豊岡市について〉

豊岡市は、兵庫県北東部に位置し、多彩な四季を織りなす自然環境に恵まれ、「幸せを運ぶ鳥」コウノトリの生息地です。「豊岡かばん」は日本一の鞆生産量を誇り、出石焼などの伝統的工芸品や但馬牛、松葉ガニ、出石皿そばをはじめ、四季折々の多彩なグルメが堪能できます。

また観光面では、情緒あふれる温泉地として海外からの来訪者が急増の「城崎温泉」、西日本屈指の神鍋高原スキー場、山陰海岸ジオパーク、天然記念物の玄武洞、城下町出石など数多くの観光スポットを有しています。



豊岡市アンテナショップ

豊岡市の情報発信拠点と豊岡市内生産商品の販路拡大の場として、平成 23 年にオープンしました。豊岡市で栽培された新鮮野菜の曜日限定販売や、毎月テーマを変えたフェアを開催していますので、ぜひ、お立ち寄りください。

《アクセス》
東京都千代田区有楽町 2-10-1
東京交通会館 1 階
JR 有楽町駅から 3 分
(営業時間 10:30 ~ 19:00、定休日：年末年始)